

… 雨でも休まず；第118、119回 …

### 「若柳・嵐山の森」から

- ・活動1：森林作業に注力：11月 1日(第一土曜日)、参加費300円
  - ・弁当持参。午後は、FSC説明会、於：桂北公民館
- ・活動2：里山交流の活動：11月16日(第三曜日) 参加費500円
  - ・弁当は主食(飯かパン)だけ持ってくる事、自分の食器(箸・皿・お椀)も持参。
  - \* 活動1・2とも「ボランティア保険加入」ため、申込必要  
TEL&FAX 03-3411-1636／事務局まで。
- ・集合：相模湖駅前：9時15分まで待つ。8時42分、9時02分 JR高尾発。
- ・服装；汚れても良い格好・着替え 《》 足元が滑らない履物
- ・持参品；軍手、自分の食器(箸・皿・お椀)持参、万一の怪我に備えて…保険証写し  
そして、作業を楽しむ“ゆとり”と怪我をしない「心構え」

### 甲州古道復活プロジェクト

甲州街道の道標つくりの依頼を受けた事から「小仏峠(相模湖町)～笛子峠(大月市)の古道を再現しよう」と言う事になって相模湖町～藤野町～上野原町～大月市の有志に声を掛けた。毎月第四日曜日、各地から20人以上の人人が集まる。11月は、活動の6回目。相模湖町から始まって藤野町、上野原町と古道を探しながら歩いて大月市に入る。その間、驚きの連続である。この活動は、新聞各紙も取り上げている。

中央高速と鉄道に分断されているが藪の中に本物の古道が残っており地形と重ねると実に合理的に道は付いている。また、各地区から古文書や古地図を持って駆け付けてくれる人々と共に思いがけない発見と驚きがある。

古道の元は、山間の途切れ止切れの杣道(そみち;樵道)だったが、戦国時代前は甲州海道(塩の道)、その後、参勤交替の道として「甲州道中」と名付け、幕府が攻められた時の退路として作られた。幕末、板垣退助に攻められた時、近藤 勇が逃れた道。

歴史を辿り、現在を知れば、将来が見えて来る気がする、貴重な体験をしている。

## 活動報告 1：森林作業／第一土曜日（10月4日）

・快晴・寒からず暑からずの森林整備に注力のこの日、プロ級・準プロ級の20人参加。

・山頂直下、標高410m付近の「協力協約／B地区」の間伐作業は、チェンソーなど重機を担いで14人が挑戦した。

・プロ級6人は、2人一組で間伐作業。準プロ級4人は、間伐作業サポートのボサ刈り。

森林に慣れた14人の作業は捲る。

見る見る視界が広がり“美しい森”

が広がる。麓のお花畠も美しいが、

整備した森の中は“清々しさ・神々しい世界”



昼食・休憩も尾根直下の作業現場で取る。

・麓に残った者は、次のイベント：都庁で開催される「江戸開府400年祭り：甲州街道／11月7日～9日」の準備に取り組む。森から都会に出かけて広報する事も重要な活動の一端。

### 報 告：作業終了後…、定例活動運営会議：於／桂北公民館

森林整備に関する様々な提案と対策が小気味良いテンポで進む。6月から始めたこの運営会議は、少しつまづきもあったが、そこはそれ、“森の達人たち”はまた、たちまちコツを飲み込んで前向きに事を進める“意思疎通名人”でもある。

- 1) 更衣室兼用：間伐材活用小屋は、大坪さん・園田さんで見積もり中。早急に解決を約す。但し、森の中には、なるべく余分のものを置かないようにしたいと言う発言に説得力あり。
- 2) 各作業班（造園班・農地班・炭窯班・養蜂班・森林整備班・間伐材活用班・緑のダム学校班・甲州古道班・流域通貨班）のテキパキの経過報告と今後の見通し発表。
- 3) 吉田さんから「バイオマス活用」について環境省との折衝の報告があった。

農園班から、大豆が収穫できたら、味噌つくりをしようとの提案があった。旨い味噌を作って“若柳味噌”ブランドで売って活動費が作れないかなぁ～、なんて空想も楽しんだ。また、「緑のダム学級」は、斎藤さんが素晴らしいものにしてくれており、これだけをテーマに検討会を開こうと動議があった。相模原や三鷹から、4時からのこの打合せだけに出席する熱心な仲間もいる。

## 活動報告 2：里山交流／第三日曜日（10月19日）

快晴・爽な秋晴れのこの日、何時もの森林仲間47人+神奈川県環境学習リーダー会14人+エコ青年隊7人の計68名が“若柳・嵐山の森”に集う。楽しい、嬉しい、早朝から笑い声が絶えない。

常連・ベテランの鎌倉から来る小5の邦久に加えて須藤仲間の息子、神船(センシュウ:良い名前だなぁ)君2歳、鍋奉行班がお孫ちゃん：ヨッシー(2歳)、マッキー(9ヶ月)を連れて来た…実は、コレ、私の孫。最高齢は、鈴木オジイサンの85歳から最低齢は9ヶ月までの参加と言う年齢幅の参加も可能なこの森の活動の幅の広さ、奥の深さを改めて思う。“全ての人々の参加”がモットーなるが故に。

- ・活動は、森林作業班、緑のダム学校班、造園班、炭窯班、鍋奉行班に分かれて進めた。
- ・森林作業は、森林ベテランの23人が若木10年生の間伐作業を完了した。次回は、枝打ちの予定。
- ・「緑の学校」は盛況。リーダー会+青年隊+生態系調査班が合同の計35名が2班に分れて活動。
- ・その他は、造園班、炭窯班、鍋奉行班がそれぞれの部署に付いた。



初参加者に作業の注意をする辻田隊長代理

快晴・気温15度程度、木の間から陽光がサンサンと差し込む炭窯広場で準備体操と活動上の注意、班分けが辻田隊長代理の指揮でテキパキ・テキパキ。本日、園田総隊長が国土緑推の指導で不在に付き、森林整備は、大日向仲隊長代行。ここにも層の厚くなった当会の現在がある。

\*神奈川県環境学習リーダー会：名の通り県内の環境学習指導を進める団体の責任者の集まる団体。

全員が環境省認定の環境カウンセラーの資格を持ち、中には農学博士もいる。普段は、それぞれの環境学習会活動をしているが神奈川県から委託されて環境指導をする。

\*エコ青年隊／緑の財団

：損保ジャパンが主催する環境保護活動の青年隊。3回目の参加。

当会は、生命保険会社の損保ジャパン緑の財団の支援を受けている。

リーダー会のアンケート評価：リーダー会を引き受けた“緑のダム”的齊藤憲弘校長も“良い度胸をしているな～”と思いながら内心、少し心配したが、活動指導後のリーダー会のアンケート評価は、身に余る「全優」と付いた。全文を少し誇らしく、ママ(ママ:原文通りと言う業界用語)で紹介する。

- 1、「緑のダム北相模」の皆様が本当に、親切に対処して頂きました。午前・午後共に一貫した生態系保護の下に組まれたプログラムは大変、勉強になりました。お昼の炊き出しも心のこもったものでした。間伐体験で良い汗をかきました。
- 2、森林の生物、生態調査、森林伐採など盛り沢山で大変参考になりました。また参加したいです
- 3、各指導員のエネルギーッシュな活動に感謝。「緑のダム」で森林実体験したのは、よかったです。
- 4、生態系と樹木観察など森林体験の中に沢山の企画があった。よかったです。今後、我々地元のNPO活動をする上で参考になった。

- 5、初めての参加ですが大変、良い参考になった。
  - 6、昆虫のトラップのいろいろは、参考になった。間伐体験もよかったです。お昼の炊き出し(ここでは、農業行組と名付けています:石井)が美味しかった。ごちそうさま。
  - 7、大変熱心に取り組んでいることに感動。時間ができたら又、来たい。
  - 8、カリキュラム／講師陣がシッカリしている。間伐を実地に体験出来て、楽しく有意義に一日を過ごせた。良い経験をさせてもらいました。
  - 9、楽しく、いろんな学びがありました。目前の利益ばかりを考えて開発に関わる人々に是非、体験して欲しいと思いました。このような企画が広く伝わるものでありますように。
  - 10、好天気に恵まれ、すばらしい体験をさせて頂きました。
  - 11、生態システムの考え方には多少相違点があったが、むしろ興味深かった。頑張って下さい！
  - 12、Very good ! 次回は農業体験をしたい。

## その他の報告

1、県／企画部 “水源地域キャンペーン” に参加

快晴に恵まれた9月27日～28日：東名高速海老名PA下り：サービスエリヤで神奈川県／企画部主催の「水源地域キャンペーン：やまなみ五湖自遊自感フェア」に協賛参加した。津久井地区に点在する「奥相模湖・相模湖・津久井湖・宮ヶ瀬湖・城山湖」の水源地域五湖の大切さを神奈川県民に知らせる広報活動である。当会から、体験コーナーは、「恒例；鋸引き体験、竹紙鉄砲つくり(桜尾さん指導)」、即売は「ぶっち切り丸太・テーブル・ベンチ、森つくり関係図書・その他森のいろいろ」。

展示コーナーは「N P O 緑のダム北相模／活動写真展」、共催の神奈川県建具組合からは、畠野さん・箕島さんが名人技の家具・建具の数々を出品・説明してくれた。この企画には、県／企画部職員の皆さんとの並々なみならぬ気使いに参加者全員、ガンバリました。何時もながら手弁当の森林仲間の協力は、2日で延べ22人となったが、この企画の成功は、斎藤さんの八面六臂のいろんな手配と阿吽の呼吸で協力する森仲間の協力による。イベントは5時頃、成功裡に終了。当会は、最後まで居残って後片付けをし、県／企画部と合同終礼の後、記念撮影して解散。夕日の沈む会場を後にした。

2、水源環境の保全・再生：津久井公聰会：10月16日：18時

この日、18時からの津久井町福祉会館ホールは、満杯でこの問題への関心度の高さを示した。遠く、神奈川県本庁から平松税制企画担当部長を始め、県の関連部署の幹部の方々がズラリ出席され、県の直創さが思われる。

1部のパネルディスカッションは拍子抜け、パネラーは答申書を読んで来ただろうか。



県／本庁の関係部署幹部総出の公聴会  
県の真剣さに身のひき締まる思いがした。

2部の県側からのこの事業説明は、懇切丁寧であった。聞きたい事は、山程あるが、その内、一つだけ都市部の生活排水対策が何故、水源の森事項として捕らえられているか質問をしたが、理解できない回答であった。地元からも沢山の質問・要望が出て、30分の時間延長して20時30分に終わったが、この大きな問題については、いかにも時間が短すぎる。

今後のスケジュールとして松沢知事、直々に各地を巡回する計画や担当部署の出張出前懇談会も用意されており、県も真剣だという事はヒシヒシと感じている。この企画は、全県22ヶ所で開催されるが県央の人々、都市部（横浜・川崎）の人々の意見も聞きに行く事にしている。

神奈川県の「水源環境問題」への取組は、わが国始めての本格的な取組で、神奈川県のこの取組の成否は、今後のわが国の森林政策を決めかねない事柄だけに真剣にならざるを得ない。岡崎前知事の英断をもって取組、それを松沢現知事が引き継いだが：現知事も山程の課題を抱えており、県民こぞって協力して良い結果を持って行かねばならない。津久井で感じた沢山の疑問・意見・提案は、文書で平松部長宛てに発信した。

### 3、月辰部信明／茅ヶ崎市長にもご協力を求めた。

… 何んとしても、桂川・相模川流域の森を守らねばならない。何をすれば良いか…

何をすれば良いかは、明解：流域材の品質・価格・数量・供給体制を整えれば良いだけである。だが現状の森林の荒廃を考えると力仕事が待っているが逡巡している訳には行かない。流域には、年間合計約30万m<sup>3</sup>（毎年40万m<sup>3</sup>、20年で45万m<sup>3</sup>相当）の木が成長している。これを適性に出荷しなければならない。そこで、流域の材の生産部門各所と話しを進めている。見通しは付けた。次に、その木を買ってくれるところを見つけねばならない。そこで、この5月から小川／相模原市長、大蔵／平塚市長他など関係各所に面会してご協力を願いしている。動くに従って、事態が動き出している。。

服部／茅ヶ崎市長は、面会申し入れを快く受け入れて下さって17日、茅ヶ崎市庁舎を訪ねた。市長は、環境と建設の責任者を交えてジックリと1時間も話しを聞いて下さった。答えは簡単である。

「茅ヶ崎市では、国産材を積極的に取り入れる方針で、いろんな試みにも取り組んでいるから、必要な資料を提出しなさい」。即ち、「流域材の品種・品質・価格・数量・供給体制」を市の要求を満たす事である。

流域三市の全首長が「流域の森林の再生は、緊急の課題である。出荷体制さえ整えて来れば何時でも、受け入れる」である。何がそうさせていかは、肥大化した組織、複雑な取決めやしがらみ、面子、流通機構、営利主義など。これを一度、パラリと白紙に戻してムリ・ムダ、ムラを除けば良い。全ての壁を持たない自由な活動の出来るN P Oのみが、これが出来る。市場が確実に受け入れてくれる事が確認出来た。資金の見通しが立っている。森林破壊と言う負の遺産を子孫に残してはならない。

予告1：11月1日／F S C認証の森／説明会：於：桂北公民館。

11月の第一土曜日定例活動日／午前中は、何時もの作業／枝打ちが主力になる。午後は、富村周平F S C認証審査員を招いて、F S C研修会とする。県森連、津久井行政センター町役場、町内などからも参加してくれる。土地の人々との森に対する思いを共有する事もF S Cの精神の大切な項目。なるべく多くの森林仲間の参加で桂北公民館を溢れさせて欲しい。

相模湖町+早稲田商店会と共に都庁前広場でイベントに参加する。恒例の“鋸引き体験”は、外せないが、兼松さんグループが又、新しい趣向を凝らしているらしい。清水さん・大久保さんなど、あのグループには、アイデアが沸き出すらしい。最近、松尾さんの竹紙鉄砲にお座敷が良く掛かる。思いがけない大きな音で“パシンッ”と鳴る。作った本人が仰天するのも面白い。

## 森の中の癒し

榎本さんは林道の作業中に知りあった。若い頃、鈴木オジイさんのお父様/重光さんの薰陶を受けて育ったそうで今の重彦氏と同様、大変な人望家だったそうである。そんな榎本さんが神奈川新聞オピニオン欄に投書した。

15年) 9月3日 水曜日

オピニオン・社説

(4)

### ■嵐山再生活動で人生おう歌

無職 榎本 昭一(相模原市)

日々、どれだけ多くの人々と有意義に接するかが人生で一番大切なことだと思います。私も既に六十三歳。昔は人生五十歳といわれましたが、男の平均寿命が八十歳近い現在、まだ、人生をおこなう歌ができる年齢です。「人生三持ち」といわれます。「金持」「物持」のダム北相模の人々約七十人が私の大好きな相模湖東岸の嵐山の再生活動に取り組んでいます。私は定年退職し、人よりもっとを知りました。県民の



兼松さんが送ってくれ朝日新聞記事

森の中にいると癒やされるのはなぜか。その仕組みを医学的に解明し、「森林療法」のメニューを確立する研究に、林野庁が着手することになった。森には樹木が発散する抗菌や芳香作用のあるフイトンチッドという物質があつて、人々の気持ち

## 医学的に解明へ

林野庁が着手

森林療法研究

は少ない。森林療法の効果が明らかにされないと認め、療法のメニューもうくべなかつた。

このため林野庁は厚生労働省の協力も得て、産官学で「森林セラピー研究会」の準備会を立ち上げる。研究会では、どんな樹種の森でどんな運動をどれくらいすると健康にどんな効果があるか、といった療法の確立をめぐらしくして、森林療法の先進国であるドイツでは、児童のコ

ミュニケーション能力の回復、心身障害者の自立に限らず、高齢者の健康維持や回復に効果があることが知られている。

- 11月1日(第一回) : 森林整備  
9時30分、弁当持参、参加費300円、同日/FSC説明会
- 11月16日(第三回) : 里山交流  
9時30分、飯のみ持参  
参加費500円、

モットー 休まず、無理せず、急がず、楽しく、ボチボチとそして、沢山のご意見、参加下さい。

名 称 / さがみ湖・森つくりの会(NPO法人ダム北相模/森林部会)

事務局 / 〒154-0023 世田谷区若林3-35-9

石村 黄仁

T & F 03-3411-1636

協働団体 / セブン-イレブンみどりの基金